

関野 常勝

(民主クラブ)

山部地域における
温浴施設の新設の計画は

問 雄大な農村景観、自然景観を活かし、富良野市の将来のまちの姿である農村観光環境都市の形成においても、山部地区は中心的な観光スポットと認識しているが、キャンプ場・パークゴルフ場など多くの方々が利用されている反面、滞在型観光の推進においても、山部地域の住民の方を含めて、地域に温浴施設の新設が必要と考えるが、見解を伺う。



山部の「ふれあいの家」

答 現在、山部地域の振興については、山部地域観光振興計画に基づき、観光を切り口とした地域の活性化に向け取り組みを進めている。

温浴施設の新設は、他施設との競合や冬期間の誘客が難しいことが予想され、経営的には厳しい状況になることが想定される。このような状況を踏まえ、既存施設の有効活用や施設整備により、今後、民間による取り組みの可能性の状況を見ながら、山部地域の関係する団体と十分協議を重ねなければならぬ課題と考えている。

問 既存施設の有効活用や施設整備を考えているとのことだが、具体的な考えがあればお聞かせ願いたい。

答 現在、ふれあいの家の中ではシャワーしか活用されていないため、観光客の集客についてどれくらい見込みがあるかなどをにらみ合わせながら、シャワーから温浴施設にする必要性があると考えている。

また、いきいきセンターの中の風呂も今後、拡充をはかる必要があると考えている。

大栗 民江

(公明党)

被災者支援システムの導入は

問 災害発生後、行政に求められるのは被災者への支援やきめ細かい対応。本市は津波の心配こそはないが、自然災害は、いつ何処でおきるかわからない。被災者支援システムは、既存のパソコンがあれば対応ができソフト開発に大切な税金を使わずに済む。平時に導入・運用していくことの対応は。

答 被災者支援システムは、阪神・淡路大震災への被災者対応に西宮市の職員が開発したもので、総務省所管の地方自治総合センターより、21年度にCD-R OMが本市にも無償配布されている。本システム機能が、さらに進化しているので、操作性や運用について検討を進めていく。

レスキューベンチ・自主防災は

問 災害発生時や緊急時には、普段のベンチが担架にチェンジするAEDと同色のレスキュー

ベンチという担架は、配備箇所が職員にもわかりやすく、救急や災害時に有効と考えるが市の認識と設置の考えは。

答 救急用だが災害時にも有効と考える。市民の防災意識の啓発にも役に立つと考える。設置は防災資機材の整備・備蓄の一つとして優先順位を判断し、総合的に検討していきたい。



市の合同防災訓練

問 9連合町内会・7町内会・1町で自主防災組織があるが、今後の方向性・考え方は。

答 地域のコミュニティ活動の推進と合わせ、組織化に向けた取り組みの協力を行っていく。

◇他に、BCP(事業継続計画)、おたふく風邪・水ぼうそうワクチンについて質問。